

## 平成 28 年度 第 2 回 学校評議員会 概要

平成 28 年 12 月 21 日(水) 10:00~11:50

神戸市立桜の宮小学校 会議室

### 1. 出席者

平田 勝彦(桜の宮小施設開放委員長)	吉川 庸一(北鈴蘭台自治会長)
相川 光一(ふれまち協議会委員長)	内原 政男(桜の宮連合自治会会長)
吉田 正彦(さくらっ子応援団会長)	井上 康代(桜の宮小学校 P T A 副会長)
宇山 美樹(桜の宮小学校 P T A 副会長)	丸岡 登(桜の宮中学校校長)
藤原 久恵(桜の宮児童館館長)	小林 剛司(桜の宮小学校教頭)
三海 弘晶(桜の宮小学校校長)	

【敬称略】

### 2. 次第

- ・はじめの挨拶 (三海校長)
- ・自己紹介
- ・桜の宮小学校全国学力学習状況調査結果および改善について
- ・平成 27 年度・28 年度生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進指定校研究発表会について
- ・中期いじめに関するアンケートについて
- ・質疑応答
- ・参観
- ・おわりの挨拶 (三海校長)

### 3. 桜の宮小学校全国学力学習状況調査結果および改善について 【校報 11 月臨時号参照】

### 4. 平成 27 年度・28 年度生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進指定校研究発表会について

### 5. 中期いじめに関するアンケートについて 【校報 12 月臨時号参照】

### 6. 意見, 質疑応答

- ・いじめられた子が自殺をしてしまう社会事象がある。どの子ども社会にとって有用な人間であることを大人が一緒になって考えていくことが自殺を防ぐことである。
- ・いじめによる自殺について、テレビのニュースや新聞の記事で知った時、「なぜ大人に相談しないのか。」と思っていたが、自分の子供が友達関係で悩んでいた時、子供が「親に相談すると、親を困らせてしまうから。」と言った。友達関係だけでなく、大人に相談することについても悩んでいることに気付かされた。大人が早期発見に努めないと、と思った。
- ・新聞では、友達に相談するというのが一番多いと載っていた。これは先生に言っても取り上げてくれないという表れではないのだろうか。  
→多数の教師は、両方の意見を聞き、いじめた側も苦しむということを伝えている。学校では人権感覚を磨くために、教師の研修をしている。
- ・子育ての一番の責任は親にあるのだが、学校と連携して子育てしていく必要がある。

- ・学校でできることとできないことがあるのではないか。
- ・学校での人間関係が児童館でも出ているのではと思う。児童館に来る時が緩むので、気を付けないと、と感じている。自尊感情をはぐくむために、地域の行事に参加させてもらっている。人とふれあう活動を大切にしていきたい。
- ・学校で取り組んでいる歯みがきについて、児童館でも食べたらみがいいよと言っている。
- ・防犯で週3回下校時と夜に巡回をしている。子供たちに出会うと「おかえり。」と声をかけると元気よく「ただいま。」と言ってくれる子と離れていく子がいる。緑のジャケットを着ている人は防犯でさくらっ子を見守っていることをこれからも宣伝してほしい。

→学校では、子供同士の関係が良好であるように、わからないことはわからないと誰もが言える学級づくりに励んでいる。

一億総活躍社会と言われ、大人みんなが働くようになり、下校時には、家で子供を出迎える家庭が少なくなってきた。家庭でしていたしつけを学校でしていくことが期待されるようになった。これからも研修を積み重ねて、さらに「教師力」を高めていきたい。